

2016.2.29

名古屋市長 河村たかし様

相生山の四季を歩く会 事務局 田中眞理
ラブリーアースJapan事務局 古川善嗣
名古屋市南区豊4-22-10 tell/fax:052-821-6463
ホームページ <http://lovelyearth.info/>

「世界のAIOIYAMAプロジェクト」平成28年度予算案に関する提案書

最近の新聞報道などによれば、首記プロジェクトによろしく予算計上とのこと、私たちは道路事業廃止にむけて一歩前進するものと評価しています。

相生山緑地の自然環境保存と名古屋市民の未来とを結び付けて考え、活動してきた経験に基づき、以下提案します。

市長および関係各位のご検討と実施を願うものです。

1. 「都市計画変更案作成のための交通調査」は、果たして必要なのでしょうか。

交通調査は地下鉄の延伸以前も以降も、各種何度も繰り返し実施されています。

また、市長は一昨年末の「計画廃止」表明時の記者会見で、「(道路より)これから自然を大事にしようの精神で」と述べておられます。半世紀以上のさまざまな経過を踏まえての、この政治判断は大変重いものです。道路を造らないことのマイナス面は充分配慮のうえでの基本姿勢の選択と受けとれるものです。

市が実施すべきは「調査」ではなく、市民への「説明」や協働のための「意見交換」であり、そのために労力や予算を使うときであると考えます。

2. こどもたちが育っていく環境の見なおしや整備は緊急の課題です。名古屋市でも「いじめ」などによる不幸な事例は後を絶たず、事態は深刻です。

相生山緑地の緑地公園構想の骨子は、大都会に残された貴重な自然の活用であるともいえます。四季の変化を感じたり、生態系について学んだり、いのち豊かな森のなかで、こどもたちの成長に不可欠の体験が待っています。

これまでも、野並小学校(天白区)や戸笠小学校(緑区)の校外学習や、近隣の未就学児施設の遊びの場としても活用されていますが、より積極的な施策でこどもたちを受け入れる準備をすすめてはいかがでしょう。

具体的には、トイレやベンチなどの増設、「森の案内人」と「ネイチャーセンター」、
「道路用地」を小規模な駐車場として開放することなど、その効果をこどもたちに渡していく事案にはこと欠きません。

緑地に関わってきた市民や関係者の意見を聞きながら、「公園構想の前倒し」として、この方面での予算化検討をすみやかに進めたいと考えています。

以上